

2026年2月3日  
株式会社三菱UFJ銀行

## 大王製紙株式会社と「自然資本経営評価型ローン」第1号案件を成約

株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一）は、お客さまの自然資本経営の取り組みを評価する融資商品である「自然資本経営評価型ローン（以下 本商品）」の取り扱いを開始しております。

本商品では、自然資本経営評価を取得し、一定基準以上のスコアを取得された企業については、「自然資本経営評価型ローン」としての実行及び対外的な発信が可能となります。なお、自然資本経営評価においては、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（以下 MUFG）の一員である三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社（以下 MURC）をサービス提供者、サステナブルファイナンスの評価を行う株式会社日本格付研究所（以下 JCR）をサポート企業としております。MURCが自然資本経営に関する独自のチェック項目に基づき、お客さまの自然資本経営に対する取り組みを評価、スコアリングを付与するとともに、JCRとの連携で客観的な評価を実施し、課題などもお客さまにフィードバックします。

大王製紙株式会社（代表取締役社長執行役員 若林 賴房）は、本商品の第1号案件として、当行とタームローン契約を2026年1月30日に締結いたしました。

また、同社はMUFGの自然資本経営評価において、「特に進んでいる自然資本経営」との評価であるAランクを取得しました。

大王グループは、紙・板紙製品及び家庭紙製品の製造販売を主な事業内容とし、これに関連する原材料の調達や、物流など、幅広く事業活動を展開しています。同グループは「世界中の人々へやさしい未来をつむぐ」という経営理念の下、自然資本経営として、森林保全・生物多様性維持、気候変動対策や循環型社会の実現を重要課題と位置づけ、1993年、製紙業界初の「DAIO 地球環境憲章」を制定して以来、環境配慮を経営に統合してきました。現在は自然関連財務情報開示（TNFD）に賛同し、自然資本に関するリスク特定と情報開示を強化しています。

### 【本ローンの概要】

契約締結日	2026年1月30日
貸付人	株式会社三菱UFJ銀行
資金用途	事業用資金

### 【高く評価を受けた自然資本経営に関する取り組み】

- ① 生物多様性・自然資本関連の課題に対して、代表取締役を委員長とするサステナビリティ委員会にて、リスクと機会の評価、目標・方針設定・戦略策定、および取り組み状況のモニタリング、経営会議および取締役会にて自然関連の取り組みの実行・進捗の監督、重要事項の決定と、推進体制が構築されている点
- ② 植林事業における地域住民・地域社会へのエンゲージメント活動として、共同防火隊の運営や環境教育活動、希少生物のモニタリング等、具体的な活動を進められている点

- ③ TNFD 提言に沿って、直接操業下にて優先地域を特定し、自然への依存と影響の評価結果に基づき、大王グループにとって対応が必要な自然関連のリスクと機会を一覧化し、公表されている点
- ④ 自然関連目標の中で「気候変動への対応」への指標、目標を設定して気候変動目標と整合させており、また温室効果ガス（GHG）吸収の取り組みとして天然林の面積を維持しつつ植林面積の拡大をしている等のトレードオフを減らす活動を実施されている点

MUFGは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの自然資本経営の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

以上